

令和7年度 神奈川県アレルギー疾患相談事業 相談・回答一覧

	学校・施設種別	アレルギー疾患名							相談内容	回答
		食物アレルギー	気管支ぜん息	アトピー性皮膚炎	アレルギー性鼻炎	アレルギー性結膜炎	花粉症	その他		
1	保育所	○							1歳児女兒、小麦・卵アレルギー、にんにく・牡蠣にアレルギー反応して、生活管理表を受け取った時は指定があったので、現在(コンソメ) 除去をしているが、医師から付加テストで不要と言われていました。 ・このような、アレルギー除去食品が確定しない時期の対応の重要点を教えて欲しいです。 ・小麦は、微量でも空中に飛ぶなどしても体内に入り、反応が怖い、集団生活で触れないことは不可能。注意点を教えて欲しいです。 ・クリスマスケーキなどの代替え食品をどうしていけばよいでしょうか。	・診断と管理について 食物アレルギーの診断は、血液検査の結果だけでは確定できません。実際に食べた時の症状や、必要に応じて行われる「食物経口負荷試験」などを含めて、医師が総合的に判断します。 生活管理指導表に記載されている内容だけでは対応が難しい場合には、主治医や専門医に直接問い合わせることも検討してください。実際の調査では、約1割の小学校がそのように医師と連携を取っていると報告されています。 ・小麦アレルギーの種類と注意点 小麦アレルギーには、主に2つのタイプがあります。小児に多い「食べて症状が出るタイプ」と、大人に多い「小麦の粉などを吸い込んで症状が出るタイプ」です。 小児の小麦アレルギーの場合、給食や保育中に微量の小麦を吸い込むことによって重い症状が出るケースは非常にまれです。そのため、過度に心配する必要はありませんが、万が一に備えて、適切な対応や職員間の共通理解は大切です。 ・アレルギー対応のケーキについて 食物アレルギーがあるお子さんには、行事食（たとえばクリスマスケーキ）も安心して楽しめるよう、アレルギーに配慮したケーキの提供を検討すると良いでしょう。
2	保育所	○							・自分の汗や体温に反応して蕁麻疹が出てしまう子がいいます。突然症状が出るため初めは何が原因か分からずに、対策など行えなかったのですが、記録を取る事で汗や急な体温の変化などで出ているのでは？という事がわかってきました。今後できる対策や予防策などありますか。 ・食物アレルギー対策で個別トレイや、声出し複数確認など食物アレルギー対応マニュアルに添って行っていますが、その日の食材でアレルギーのものが確実にない時なども個別トレイ、個別の席など行った方がよいでしょうか。	・蕁麻疹の誘因を特定することは、一般的に難しいとされています。 汗や体温の変化が悪化要因となるケースもありますが、蕁麻疹の8～9割は明確な原因がない「特発性蕁麻疹」と考えられています。蕁麻疹が出ても、特にかゆみがないなら、特別な介入をしなくてもよいと考えられます。症状が頻繁に出て生活に支障がある場合は、医療機関の受診をおすすめします。花粉症に使われるような薬を予防的に毎日飲むことでほとんど症状が出なくなります。 ・食物アレルギーによる誤食の主な原因は、誤配や伝達ミスといった人的エラーであるとされています。 そのため、誤食を防ぐには、対応をできるだけ「単純化」することが重要です。たとえば、「アレルギーがない日だから」という個別トレイや席の対応を変更すると、混乱が生じやすくなり、特にアレルギー児が複数いる場合には誤食のリスクが高まる可能性があります。一方で、子どもの気持ちへの配慮も非常に大切です。『食物アレルギー対応マニュアル』でも述べられている通り、アレルギー児が自分の対応食を前向きに受け止められるような支援や、周囲の子どもたちと違いを自然に受け入れられるような働きかけが求められます。年齢や発達段階に応じた説明や声かけ、環境づくりを工夫することが望ましいと考えられます。